

過去のアメリカの側面から

- 日本開国：日本は鯨油産業の敵であった。ペリー来日。
- 排日問題：労働を商品として人間的感情なしに成立させた、アメリカ労働市場。移民の労働者から経営者へと変わっていった日本人はアメリカの同業者から排斥された。アメリカのカネのまわりが悪くなるから。
- 日米貿易摩擦：本来ゆたかに世界を還流するべきドルを日本だけが大量に取り込み、それを国内において貯金として累積している。 もっと輸入を増大せよ。日本の「文化」的理由には興味なし。
- 文明意識：「大きな立場から日本の特異さを見ようとはしなかった。目前のテーマについて明晰な理論を構築することがすべてで、その場合過去の歴史的事情などを情緒的に考えない。」

別のアメリカの側面

- 排日時代、ストウジ博士の日本人共同墓地の中の記念碑 ごみのようにわれ日系人の為に庇護して、働いてくれた人がいた。
- 関東大震災（1923年）1200万ドルの義捐金（ぎえんきん）
- 万次郎の受けたアメリカの高等教育。明治外交史の巨人、小村の受けたアメリカの善意。「弱いものを愛してやる。武士の魂なり。」
- 万人が参加できる普遍性。 対比として「グズ」は参加できない戦前の日本文化。 司馬氏の体験。
- 「はじめに法があり、あとから人がきた国」
「慣習が文化であるとすれば、体育館の屋根（法）は万人のために雨露を防ぐという点で普遍性そのものである。その意味で法は文明の典型的現れであろう。」 アメリカは法の下にあらゆる文化を許容している大国である。
司馬氏は「ゲイ」は一つの文化圏をして例に挙げている。

ディスカッション

- 人を受け入れ、尊重する姿、またその反面、相手をコントロールし、征してしまおうという Duality が同時に存在することを司馬氏は感じているようである。日本の文化圏にルーツを持ち、大きな文明の傘の下にいる私たちの経験は？